蕨歳時記

4月8日　花まつり

【塚越稲荷社境内　定正寺観音堂】

お釈迦さまの誕生日である4月8日に行われ、小さなお釈迦さまの像に甘茶をかけてお祝いする。

4月29日　苗木市

【中山道本町通り】

以前は雛市と呼ばれ、雛人形を売る露店が並んでいた。昭和30年代ごろから苗木が売られるようになった。

4月29日　藤まつり

市指定 32 【三学院】

三学院の藤は根回り約3.5m、棚面積約395㎡の巨樹。市指定文化財。

8月7日　「機神社」の機まつり

【塚越稲荷社境内　機神社】

高橋新五郎が機屋を始めたとされる8月7日に機神社に参詣し、織物業の発展を祈願したことが始まり。

8月7日前後4日　わらび機まつり

【西口駅前通り】

蕨の織物業の発展を願って、昭和26年(1951)から開催され、夏の風物詩として多くの人で賑わう。

10月15日直近の土日　和楽備神社例大祭

【和楽備神社】

和楽備神社の秋祭り。神輿や山車などが各町内を練り歩く。

11月3日　中仙道武州蕨宿宿場まつり

【中山道本町通り】

昭和59年(1984)から開催。織姫道中パレードやサンバパレードなどたくさんのイベントが行われ、多くの人で賑わう。

12月17日　おかめ市

【和楽備神社】

おかめ市は酉の市のこと。縁起物の熊手を売る露店が立ち並び、多くの人で賑わう。

EVENT

Please do new discovery

蕨

HISTORY

蕨市立歴史民俗資料館

「蕨」の地名はどこから？

蕨の地名は、植物の「蕨」が由来になったとする説と、「藁の火」から名付けられたとする説がある。在原業平が、藁の火で体を暖めたことから「藁火」と名付けたという説と、藁を燃やす煙のたなびく美しい風景から、源義経が「藁火」と名付けたという説が語り継がれている。しかし文献上では「蕨」が用いられており、「藁火」と記されたものは発見されていない。

「塚越」の地名はどこから？

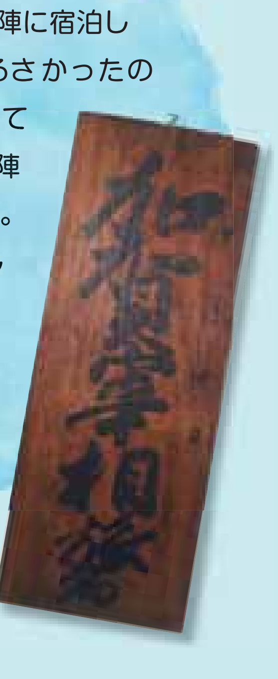
蕨市は、かつて蕨宿と塚越村の2つの地域に分かれていた。塚越の地名は、諸国を巡る僧侶が経文を埋めた塚を築いたことから、「経塚腰村」と呼ばれたことに始まると伝えられる。地名の由来になったと伝えられる塚には、塚越稲荷社が建立されている。

火伏地蔵さん

三学院にある子育地蔵（市指定 1）は、火伏地蔵とも呼ばれている。蕨宿の時代、お坊さんに姿を変えたお地蔵様が、火事のお告げをして大火を防いだことから、この名が付いたといわれている。

加賀殿様とカエル

加賀(石川県)のお殿様が蕨宿本陣に宿泊した夜のこと。カエルの鳴き声がうるさかったので、竹ざおで田んぼをたたいて静めていたところ、いたずら好きな男が本陣の庭へカエルを一匹放してしまった。しかしお殿様は怒るどころか、むしろ風流なものだと喜んだそうである。



関札「加賀宰相旅宿」
※歴史民俗資料館（中央 5-17-22）で展示しています
MAP ①

蕨市のうつりかわり

長谷秀雄「若き日」(蕨駅西口広場)

1 MAP ⑦

彫刻家の長谷秀雄は戦後の蕨で「蕨画塾」を開設。芸術文化の発展に尽力した。

わらびりんご

日本一早く実をつけることで知られ(6月頃)、強い酸味が特徴のりんご。昭和56年(1981)に錦町の吉澤正一氏によって研究開発された。

時代	年号	蕨市のできごと
弥生		蕨に人が住み始める（金山遺跡）
平安	長徳4年（998）	三学院が創建したという
室町・安土桃山	観応3年（1352）	蕨の地名が初めて記録にあらわれる（賀上家文書）
	大永4年（1524）	蕨城が落城する（大永6年とする説もあります）
	永禄10年（1567）	蕨城主渋川氏が上総国三舟山合戦で戦死したという
	天正19年（1591）	徳川家康が三学院に寺領20石を寄進する
江戸	慶長17年（1612）	蕨宿が成立したという
	享保10年（1725）	蕨宿に大火が発生し、町並みや三学院が焼失する
	文政9年（1826）	高橋新五郎が織物業を始めたという
	安政2年（1855）	安政の大地震が起こり、蕨宿も被害を受ける
	文久元年（1861）	皇女和宮が将軍家に下向途中、蕨宿本陣で小休する
明治	明治元年（1868）	明治天皇が大宮氷川神社行幸の際に、蕨宿本陣で小休する
	明治3年（1870）	石川直中が蕨郷学校を開校する
	明治5年（1872）	学制により、蕨郷学校が第二十九番小学（現 北小学校）となる
	明治11年（1878）	塚越村に第四十三番小学（現 東小学校）が開校する
	明治22年（1889）	蕨宿と塚越村が合併し、蕨町となる
	明治26年（1893）	蕨駅が開業する
	明治40年（1907）	台風による大水害が起こる
	明治43年（1910）	台風による大水害が起こる
	明治44年（1911）	蕨町に電灯・電話がひかれる 蕨町内18の神社が合祀して和楽備神社となる
大正	大正3年（1914）	塚越地区に電灯がひかれる
	大正4年（1915）	蕨町の紋章が制定される（現在も使用されています）
	大正12年（1923）	関東大震災が起こり、蕨町内も被害を受ける
	大正15年（1926）	塚越地区に電話がひかれる
昭和	昭和7年（1932）	赤羽－大宮間に電車が開通する
	昭和20年（1945）	蕨町が3回の空襲を受ける
	昭和21年（1946）	第1回成年式が開催される
	昭和23年（1948）	蕨画塾の設置が認可される（～昭和39年）
	昭和26年（1951）	第1回わらび機まつりが開催される
	昭和34年（1959）	市制を施行し、蕨市となる
	昭和41年（1966）	新住居表示が実施され、現在の町名にかわる
	昭和52年（1977）	河鍋暁斎記念美術館が開館する
	昭和56年（1981）	わらびりんごが開発される
	昭和59年（1984）	第1回中仙道武州蕨宿宿場まつりが開催される
	昭和60年（1985）	「蕨市平和都市宣言」をする
平成	平成2年（1990）	歴史民俗資料館が開館する